



2022年 1月31日  
第123号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## 横地申18号「2022年3月ダイヤ改正」に関する申し入れ提出！

次期ダイヤ改正は、一昨年から続いている新型コロナウイルス感染症の影響が未だに続いている中での改正となります。会社は「2022年3月ダイヤ改正」において、お客さまの利用状況に合わせて輸送体系を見直すとしていますが、朝通勤時間帯の列車本数を減便することで混雑率が増加し、お客さまへのサービス低下に繋がることが懸念されます。成田エクスプレスにおいては、昨年からの減便ダイヤで運行されており、未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、どのような運行体制を行うのか危惧するところです。また、相模線の新型車両E131系への置き換えでワンマン運転を実施し、横浜線への直通運転を取りやめることは、乗り換えなしで八王子方面へ乗車していたお客さまには利便性が低下となることでサービス低下となります。

一方、ダイヤ改正に合わせて「乗務員の業務等の見直し」が提案され本部・本社において議論されました。内容は、準備時間の変更、徒歩時分の見直し、運転士によるドア扱いなど、労働密度が上がることで予想され、ダイヤ改正毎に乗務員行路の見直しにより乗務労働のゆとりがなくなってきました。特に運転士による行先設定や案内放送は、これまで取り扱いのない作業であり、不安の声もあげられています。

従いまして、ダイヤ改正は労働条件の変更であり、ダイヤ改正の度に労働条件が厳しくなることは認めるわけにはいきません。「安全・健康・働きやすさ」そして、労働にゆとりがある労働環境を求めするため、横浜地本は下記の通り申し入れをしました。

1. 2022年3月ダイヤ改正において、乗務員の睡眠時間・食事時間・乗継時間等の拡大や、接続時間など改善されたものを示すこと。また改善を図ること。
2. 朝通勤帯に減便をする考え方を示すこと。
3. 成田エクスプレスの千葉駅停車を拡大する考え方を示すこと。
4. 南武線の土休日の快速電車の運転時間帯の拡大に至った考え方を示すこと。
5. 鶴見線営業所の川崎運輸区泊行路を弁天橋泊に変更した理由を示すこと。
6. 車両メンテナンス区所の、検修および構内作業の見直しについて内容を示すこと。
7. 乗務員の業務等の見直しで、乗務員の業務が変更となる内容を示すこと。
8. 特急「踊り子」「湘南」の車掌業務を変更する考え方を示すこと。
9. ダイヤ改正に関わる教育・訓練は、ダイヤ改正前までに全社員に周知・徹底すること。
10. ダイヤ改正に関わる設備等は、ダイヤ改正前までに整備すること。
11. ダイヤ改正の内容について、お客さまに周知を図ること。



**組合員・社員の声をもとに、精力的に団体交渉を行います！**